



SAKUSHIN GAKUIN
UNIVERSITY

作新学院大学

SAKUSHIN GAKUIN UNIVERSITY

未来に LINK

資格取得支援講座

学内ダブルスクールで
大卒資格と将来有用な資格をWゲット!

開設講座

- ◆公務員試験講座 (警察官・消防官・行政職等)
- ◆日商簿記検定2級講座
- ◆税理士試験講座 (会計科目・税法科目)
- ◆ITパスポート講座
- ◆基本情報技術者試験講座



主催：作新学院大学大学教育センター

資格取得にチャレンジして 自分の可能性を広げよう！



作新学院大学 学長
太田 周

資格取得にチャレンジすることは就職の可能性を広げるだけでなく、その後の人生における様々な場面で役に立ちます。目標を定めて、目標達成に向けて努力を重ねた結果、試験に合格するという体験を着実に積み重ねていくことは、人生をより豊かなものとするにつながります。

大学での正課科目は幅広い教養や専門的な知識および技能を身に付けることを目的として開講されていて、資格試験への合格を目的としているわけではありません。資格取得を目指すためには、目指そうとする資格試験に直結した勉強をするのが最も効果的です。このような背景から、大学生が難関資格取得を目指そうとする場合には、“ダブルスクール”という形で大学と、資格試験対策に精通した専門学校のそれぞれに通学するのが一般的でした。

作新学院大学資格取得支援講座は、大学に在籍しながら、専門学校に通うのと同じ効果が得られることを目指した“学内ダブルスクール”として2014年度からスタートしました。しかも、資格取得試験に精通した講師陣の講座を無料で何度でも再受講できるという特長があります。資格取得支援に向けた講座を設置している大学は日本国内に多数ありますが、受講料無料で実施している大学はまだそう多くありません。

作新学院大学では、資格取得支援講座の担当講師のみならず、教職員一丸となって学生のみなさんの資格取得を全面的にバックアップします。一人でも多くの学生が本講座を受講し、資格取得に対して積極的にチャレンジすることを願ってやみません。資格取得を通じて、将来に向けた自分の可能性を広げていきましょう。



ここが違う！作新学院大学の資格取得支援講座

特長1 大学卒業と将来に役立つ資格を“Wゲット！”

大学の正課科目を履修しながら、資格取得にチャレンジすることができるので、**大学卒業と、資格取得を同時に達成**できます。大卒資格を得ておくことは、その後の人生の様々な場面においてプラスに働きます。

特長2 受講料は無料！

資格取得支援講座は**受講料が無料**です（ただし、講座ごとに講座運営諸経費（詳細は15ページのFAQをご覧ください）が発生します。また、各講座で使用するテキスト・問題集・模擬試験等は自己負担となります）。経済的な負担をかけずに資格取得にチャレンジできます。

特長3 資格取得に精通した講師陣による講座

資格取得支援講座は、それぞれの**資格試験の実情に精通し、受験指導経験のある講師が担当**します（各講師の紹介は後述）。資格取得に特化したムダのない授業によって最短ルートで合格に導きます。

特長4 1年生から受講可能

資格取得支援講座は何年生からでも受講を開始できます*。1年生から受講できるため早期に資格を取得したり、複数の資格を在学中に取得したりすることも可能となり、就職活動で優位に立てます。

※税理士試験受験講座（会計科目）は必ず1年生後期から受講を開始してください

特長5 資格取得を卒業要件単位数に換算

資格取得支援講座が合格目標とする各種の資格試験に合格すると、卒業要件単位数に所定の単位数が加算されます（ただし、加算される単位数は資格により異なり、上限があります）。正課科目の履修を妨げずに資格取得の勉強に励むことができます。

公務員試験受験講座

就職に直結！警察・消防・行政職（地方公務員）の対策に特化した講座で、最終合格（＝就職）を目指しましょう！

講座の特長

- ・警察・消防・行政職（専門試験を必要としない行政職）の合格に必要な十分な受験対策を行います
- ・数的推理と判断推理には多くの時間を割き得点源に変えていきます
- ・専任教員を中心とした集団指導体制で論文・面接対策も万全です

【公務員試験の概要】

国家公務員と地方公務員試験がありますが、本講座は地方公務員のうち、警察、消防、市町村職員（宇都宮市などの教養試験のみで受験可能な市町村）をターゲットとします。

公務員試験は大学4年次の春から夏もしくは夏から秋にかけて受験し、1次試験（筆記試験）と2次試験（論文・面接・集団討論等）があります。筆記試験は幅広い範囲から出題されます。また論文、面接、集団討論は、論理的思考力、表現力そして討論能力が試されます。それゆえ公務員試験では学力、表現力、論理的思考力の備わった「総合力」のある人物が求められています。2次試験に合格すると最終合格者として警察・消防・市町村などに採用されます。

筆記試験は専門科目（法律・経済関連）の受験が必要な自治体（主に県庁など）と教養試験のみで受験可能な自治体に区分されますが、本講座では後者の自治体の受験対策を行います。

※専門試験を必要とする自治体の受験を希望する場合には本講座とは別に対応します

【公務員試験の受験対策はどのように役立つか】

公務員試験の筆記試験対策や論文・面接試験対策は、民間企業の就職試験対策と類似している部分が多くあります。本講座を通じて公務員試験対策をきちんと行うことで、民間企業への就職活動の準備も併せて行うことができます。

講師紹介

公務員試験受験講座は右ページにありますように警察・消防・教養試験のみで受験可能な行政職の受験に必要な対策を10のブロックに分けて、下記の7名の教員がそれぞれの専門分野や得意分野を中心に担当する集団指導体制を採用します。これにより、論文・面接試験対策ではキメの細かい対応が可能となります。

- ・荒木 宏（本学経営学部教授・面接対策および文章理解等担当）
 - ・森 亮太（本学経営学部特任講師・数的推理・判断推理担当）
 - ・法貴 良一（本学経営学部教授・論文対策および時事問題等担当）
 - ・渡邊 孝夫（本学経営学部非常勤講師・教養問題担当）
 - ・趙 鏞吉（本学経営学部教授・数的推理・判断推理担当）
 - ・三井 英紀（本学経営学部非常勤講師・法律基礎担当）
 - ・武井 孝介（本学経営学部准教授・経済基礎担当）
- ※都合により担当講師が変更になる場合もあります

【講座のイメージ】 紙幅の都合があるため詳細な内容については開講時に提示します

公務員関連全般指導

公務員の仕事や職種、試験の内容と勉強法、面接や討論の基礎知識の講義を通じて、筆記試験に必要な学力や面接や討論における自己表現力など、公務員試験に必要な「総合力」の修得について学びます。

数的推理・判断推理対策入門

公務員試験における数的推理・判断推理の問題を解く上で必要な知識を、基礎から丁寧に解説していきます。

教養問題演習

公務員試験（特に警察・消防職試験）に不可欠な漢字問題や数学知識、一般教養（人文科学を中心に）について基礎固めを行います。

数的推理・判断推理対策基礎

数的推理・判断推理の基礎的な教科書を中心に基礎知識から体系的に学習します。一方的な講義ではなく、受講者が参加する授業を目指します。

文章理解基礎（英語）

本講義では、英語の長文読解問題について、英語の基礎力を活用していかにスピーディーに読み内容を把握し解答するか、効率的な読み方や解き方について学びます。

経済学関連問題演習

本講義では、主に市役所、警察官、消防官の採用試験において実施される教養試験の「経済分野」について、理論、用語、時事問題の解説と問題演習を行います。

法学関連問題演習

本講義では、憲法を中心として法学関連頻出領域を扱い、多くの問題を解答可能にするような最低限の法知識と法の基本的な考え方を学習します。

論文基礎

いくつかの基礎的な文章構成パターンを学習し、400字程度からはじめて、800～1200字の文章を破綻なく構成することを目指します。

時事問題演習

教養試験や面接試験で時事的関心が問われるようになってきていることを踏まえて、論文試験対策も視野に入れながら直近の日本と世界の重大問題を検討・解説します。

数的推理・判断推理実戦演習

警察過去問等から数的推理・判断推理分野の問題をタイプ別に全100問に編集したうえで、演習形式で解説し、要点の整理を行っていきます。

4年次（直前） 面接（模擬面接）指導

入門

基礎から応用

直前

日商簿記検定 2 級講座

ビジネスに必須の知識とも言える簿記会計を学習し
日商簿記検定 2 級を取得しよう！

講座の特長

- ・ 簿記の学習が初めてでも安心！基礎から丁寧に学べます。
- ・ 高校までに取得した簿記の資格に応じて受講する講座を自由に選択できます。
(例：高校で全商簿記 1 級に合格した場合は日商簿記 2 級商業簿記講座からのスタートも可能です)

【資格の概要】

日本商工会議所簿記検定（日商簿記検定）は日本商工会議所が主催する簿記に関する資格試験です。年間でのべ 60 万人以上が受験する日本最大級の資格試験であり、社会的な評価も非常に高く、就職活動でも有利になります。

日商簿記には 4 級から 1 級までありますが、2 級に合格することは、公認会計士や税理士、企業の経理業務などのような会計プロフェッショナルを目指すための第一歩となります。

【資格試験の全体像】

日商簿記 2 級の試験は年 3 回（6 月、11 月、2 月）実施され、商業簿記（60 点）と工業簿記（40 点）の二つの科目の合計得点が 70 点以上であれば合格となります。合格率は平均で約 30%となっており、簿記の学習経験がなくても 1 年あれば十分に合格可能です。

【この資格はどのように役立つか】

日商簿記 2 級に合格することは、会計学の基本事項を理解していることを意味します。公認会計士や税理士などの難関資格に挑むためのパスポートであると同時に、金融機関、民間企業の経理部などへの就職の扉を開くためにもぜひ合格しておきたい資格です。税理士を志望していて簿記学習が未経験の方でも本講座を 4 月から受講することで、秋から始まる税理士試験受験講座にスムーズに入ることができます。

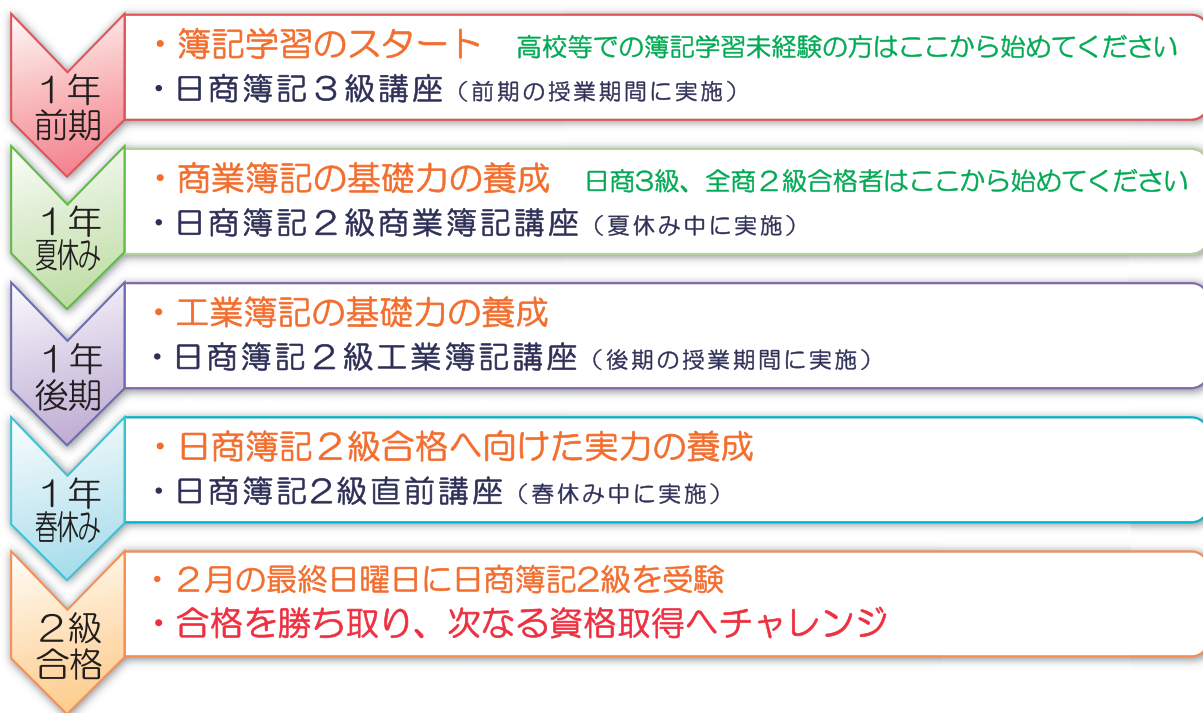
講師紹介・メッセージ



小林 芳樹（作新学院大学資格取得支援講座講師）

県立学校教員として長年、商業教育とりわけ簿記教育に携わり、日商簿記検定試験にも取り組んできました。「簿記はその仕組みを理解すれば非常に分かりやすいものです。簿記の知識・技能はキャリアアップに大いに役立ちます。意欲を持って頑張りましょう。」

【講座のイメージ】 1年生が受講する場合を想定しています



【講座内容】 日商簿記検定2級講座の各回授業での学習項目です。

講座名				
回数	3級講座（前期）	2級商簿講座（夏休み）	2級工簿講座（後期）	2級直前講座（春休み）
1	簿記の目的	商品売買取引と評価	工業簿記の基礎・記帳体系	模擬試験①実施 解答と解説
2	簿記一巡	有形固定資産	材料費会計	
3	現金・預金	無形固定資産	労務費会計	模擬試験②実施 解答と解説
4	商品売買Ⅰ	引当金	経費会計・製造間接費会計	
5	商品売買Ⅱ	株式会社	単純個別原価計算	模擬試験③実施と解答と解説
6	手形	収益と費用及び認識基準	部門別計算・個別原価計算	模擬試験④実施と解答と解説
7	その他の勘定①	銀行勘定調整表	総合原価計算①	模擬試験⑤実施と解答と解説
8	その他の勘定②	その他の取引①	総合原価計算②	模擬試験⑥実施と解答と解説
9	試算表の作成①	その他の取引②	総合原価計算③	2級直前講座は8回で 終了となります
10	試算表の作成②	その他の取引③	標準原価計算①	
11	決算①	決算①	標準原価計算②	
12	決算②	決算②	直接原価計算	
13	決算③	決算③	工企業の財務諸表	
14	伝票	本支店会計	本社・工場会計	
15	問題演習①	問題演習①	問題演習①	
16	問題演習②	問題演習②	問題演習②	

税理士試験受験講座 (会計科目)

時代は新世代の税務の専門家たる税理士を求めている！

まずは簿記論・財務諸表論から学習し、税理士を目指そう！

講座の特長

- ・税理士資格取得に向けて、在学中に簿記論・財務諸表論の合格を目標とします。

【資格の概要】

税理士とは、税務・会計の専門家であり、その資格は社会的にも信頼の厚い国家資格の1つです。税理士試験は、毎年夏に国税審議会が行う難関試験のひとつであり、その試験科目は、会計学に属する科目（簿記論及び財務諸表論）の2科目と税法に属する科目（所得税法、法人税法、相続税法、消費税法又は酒税法、国税徴収法、住民税又は事業税、固定資産税）のうち受験者の選択する3科目です。

各科目は一度合格すると税理士になるまで有効であり、全科目を一度に学習する必要はありません。そのため、まずはビジネスの言語ともなり得る簿記論及び財務諸表論から学習を始め、他の科目はその後の生活と相談して目指される方も多くいらっしゃいます。

【資格試験の全体像】

税理士試験は、合格基準点が各科目の満点の60%です。合格科目が会計学に属する科目2科目及び税法に属する科目3科目で、合格科目が合計5科目に達したとき合格者となります。ただし、大学在学中に科目合格をしていることは社会的評価が高いのが実情です。

【この資格はどのように役立つか】

税理士の仕事は、税務代行、税務相談、会計業務、税務訴訟の補佐人、株式会社の役員たる会計参与等、極めて多岐に渡るため、資格取得者の活躍のフィールドは、無限に広がっていると言っても過言ではないでしょう。科目合格を果たすことで、会計事務所などへの就職も現実味を帯びてきます。

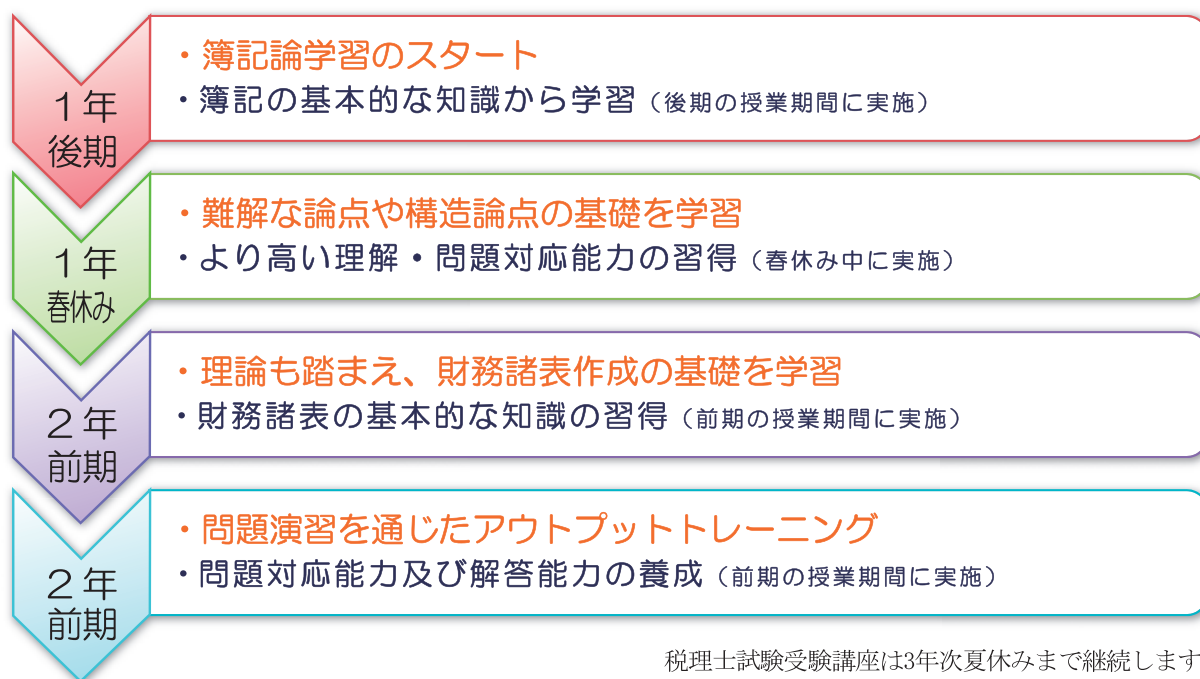
講師紹介・メッセージ



森 亮太 (作新学院大学経営学部特任講師)

2007年公認会計士試験合格、資格の学校TAC、青山学院大学大学院、十文字学園女子短期大学等、講師歴7年。「税理士試験は難関試験ですが、その社会的信頼は極めて厚く、努力する価値のある資格といえます。一緒に頑張っていきましょう！」

【講座のイメージ】 1年生が受講する場合を想定しています



【講座内容】

税理士試験受験講座の前半部分（2年次前期まで）での各回授業学習項目です。税理士試験受験講座は2年間に及ぶため後半部分の学習項目は開講後に別途提示します。

講座名				
回数	税理士受験講座Ⅰ (1年次後期)	税理士受験講座Ⅱ (1年次春休み)	税理士受験講座Ⅲ (2年次前期)	問題演習Ⅰ (2年次前期)
1	簿記一巡の手続き	外貨建取引①	計算書類等	問題演習・解説①
2	債権・債務・現金預金	外貨建取引②	金融商品①	問題演習・解説②
3	手形・引当金	製造業・工事契約	金融商品②	問題演習・解説③
4	一般商品売買	研究開発費	商品売買	問題演習・解説④
5	固定資産①	本支店会計	固定資産①	問題演習・解説⑤
6	固定資産②	特殊商品売買①	負債会計	問題演習・解説⑥
7	特殊商品売買	特殊商品売買②	税金	問題演習・解説⑦
8	株主資本	帳簿組織	企業会計原則等	問題演習・解説⑧
9	税金	新株予約権・繰延資産	棚卸資産	問題演習・解説⑨
10	社債	組織再編①	固定資産②	問題演習・解説⑩
11	有価証券	組織再編②	税効果会計	問題演習・解説⑪
12	固定資産③	連結会計①	会計理論①	問題演習・解説⑫
13	固定資産④	連結会計②	会計理論②	問題演習・解説⑬
14	人件費	連結会計③	会計理論③	問題演習・解説⑭
15	問題演習	問題演習	問題演習	問題演習・解説⑮

税理士試験受験講座 (税法科目)

現役税理士が難解な税法をかみ砕いてわかりやすくレクチャー
消費税法にターゲットを絞り 1 年後の税法科目合格を目指します

講座の特長

税理士は単に税金の計算をする会計人として見られがちです。確かに日常業務は会計的な仕事が多いのは事実です。しかしキャリアを積むに従い量が増すのは法律問題の解決業務です。本講座は税理士が税法の法律専門家であるという認識に立ち、法律実務事例をふんだんに盛り込むことにより、受験生の税法的な思考能力を磨きます。

【税理士試験の概要・全体像】

税理士試験受験講座（会計科目）のページをご参照ください。

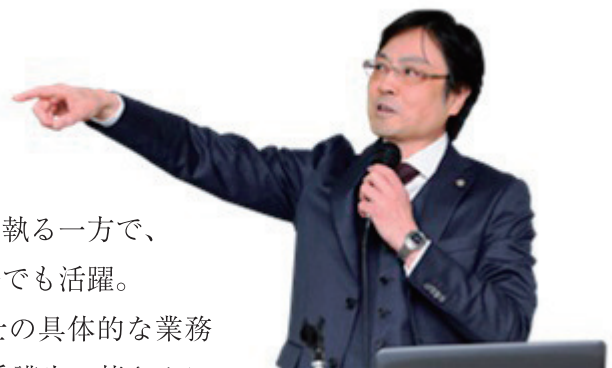


講師紹介・メッセージ

前橋明朗 (まえはし・あきら)

作新学院大学経営学部教授・経営学科長
税理士 (関東信越税理士会会員)

作新学院大学経営学部、大学院経営学研究科で教鞭を執る一方で、現役の税理士として関東信越税理士会に所属し、実務でも活躍。「税法の科目合格に必要な知識だけではなく、税理士の具体的な業務内容や実務を通じた経験などについても折に触れて受講生の皆さんにお話ししたいと思います。合格を目指して一緒に頑張りましょう。」



【講座のイメージ】

受験前年度後期
税法概論
(全 7 回)

受験前年度後期～受験年度前期
消費税法講座
(全 41 回)

受験直前期
直前対策講座
(全 2 回)

税理士試験

【講座内容】 税理士試験受験講座（税法科目）の学習項目です

≪ 概 論 ≫	
1. 税理士の仕事	25. 課税対象 (3): 輸入取引
2. 租税の種類	26. 非課税取引
3. 企業の税金	27. 免税取引
4. 税法学習に必要な会計知識 (1)	28. 課税標準及び税率 (再確認)
5. 税法学習に必要な会計知識 (2)	29. 納税義務者
6. 法体系と課税実務	30. 納税義務の免除
7. 税法条文読解の基礎	31. 問題演習 2～解説
≪ 消費税法 ≫	32. 仕入税額控除 (概説)
8. 全体像	33. 課税仕入れ (1): 要件
9. 基本的仕組み	34. 課税仕入れ (2): 金額計算
10. 関連諸法	35. 控除対象仕入税額の計算方法
11. 消費税法の構成	36. 課税売上割合
12. 必須用語の理解 (1): 事業者	37. 一括比例配分方式
13. 必須用語の理解 (2): 課税期間	38. 個別対応方式
14. 必須用語の理解 (3): 課税売上高	39. 売上げに係る対価の返還等
15. 必須用語の理解 (4): 課税仕入高	40. 貸倒れに係る消費税額の控除等
16. 税率の内訳 (国税と地方税)	41. 仕入れに係る対価の返還等
17. 納付税額の計算過程 (概観)	42. 問題演習 3～解説
18. 問題演習 1～解説	43. 簡易課税制度 (1): 適用要件
19. プレ演習 (1): 申告書作成 (簡易課税)	44. 簡易課税制度 (2): みなし仕入率
20. プレ演習 (2): 申告書作成 (簡易課税)	45. 簡易課税制度 (3): 兼業の取扱い
21. プレ演習 (3): 申告書作成 (一般課税)	46. 問題演習 4～解説
22. プレ演習 (4): 申告書作成 (一般課税)	47. 申告と納税 (1): 確定申告
23. 課税対象 (1): あらまし	48. 申告と納税 (2): 中間申告
24. 課税対象 (2): 国内取引	49. 総合問題演習 1～解説
	50. 総合問題演習 2～解説

(注) 受講生の状況によっては開講科目 (税目) が消費税法ではなく別の税目にも変わることがあります

ITパスポート受験講座

情報処理技術者試験の第一歩である IT パスポートに合格して
基本情報技術者試験へステップアップしよう

講座の特長

- ・基礎知識の定着と反復演習をバランスよく配置して短期間での合格を目指します
- ・社会人となってから役立つ知識やスキルを先取りして学習できて就職活動にも有利です

【ITパスポート試験の位置づけ】

ITパスポートは国家試験である情報処理技術者試験の一つで、最も基礎となる試験（レベル1）に位置づけられています。基本情報技術者試験がITパスポート試験の上位（レベル2）に位置づけられていることから、本講座を通じてITパスポートに合格し、その後、翌年4月から始まる基本情報技術者試験講座へとステップアップするのが理想的です。

【ITパスポート試験の特徴】

ストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系の3つの系統から合計で100問の問題が出題され、2時間の試験時間で解答します。総合評価点が満点の60%以上に到達し、かつ3つの系統の分野別評価点が分野別に設定された満点の30%以上に到達すれば合格となります。コンピュータに関する知識を問う問題と、企業経営や法務について問う問題がほぼ半々で出題されており、両者をバランスよく学習する必要があります。合格率は概ね50%前後で、合格率は比較的高い試験です。

ITパスポート試験の大きな特徴として、CBT（Computer Based Testing）方式による試験を実施しているため、ほぼ毎週土曜日または日曜日に宇都宮市内のいずれかの会場で試験を受験することができます。

【この資格はどのように役立つか】

ITパスポートは社会で活躍するビジネスマンになるために身に付けておきたい最低限度のITや経営に関する知識を問うための試験ですから、試験範囲を一通り学習すると、コンピュータに関する基礎知識や企業経営や法務に関する基礎的な知識を身につけられます。これらの基礎的な知識を有していることは、就職活動で有利に働くだけでなく、社会人となってからも様々な場面で役立ちます。また、経営学部の学生は大学の授業の内容と重なる部分が多いため、理解がより進みます。

講師紹介・メッセージ

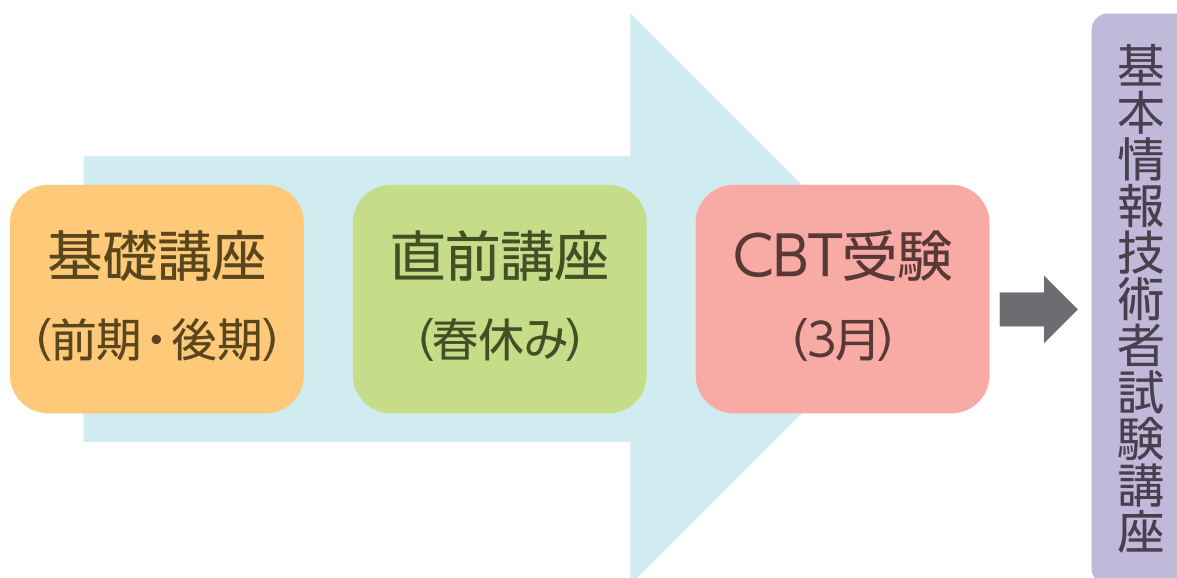


高橋 秀行（作新学院大学経営学部教授）

経営学部専門科目と共通教育科目にて、経営情報論、コンピュータシステム基礎、データベース概論、情報ネットワーク論など担当。「試験範囲は広いですが、決して難解な理数系試験ではありません。コンピュータの仕事のやり方を勉強しましょう！」

【講座イメージ】

前期と後期に基礎講座、春休みに直前講座を受講し、3月中に CBT 方式で行われる本番試験を受験します。IT パスポート試験に合格後は、翌年4月から始まる基本情報技術者試験講座を受講し、さらに上位資格である基本情報技術者試験合格を目指すのがお勧めです。



【講座内容】 IT パスポート受験講座の各回授業での学習項目です。

IT パスポート受験講座		
	基礎講座 (前期・後期)	直前講座 (春休み)
1	ハードウェア① (5大装置とCPU、メモリ)	過去問演習① 模擬試験形式の答案作成と解答・解説
2	ハードウェア② (入出力装置、基数変換と補数)	過去問演習② 模擬試験形式の答案作成と解答・解説
3	ソフトウェアとマルチメディア① (ファイル管理)	過去問演習③ 模擬試験形式の答案作成と解答・解説
4	ソフトウェアとマルチメディア② (表計算)	過去問演習④ 模擬試験形式の答案作成と解答・解説
5	システム構成	過去問演習⑤ 模擬試験形式の答案作成と解答・解説
6	ネットワーク	過去問演習⑥ 模擬試験形式の答案作成と解答・解説
7	セキュリティ	模擬試験① 模擬試験形式の答案作成と解答・解説
8	データベース	模擬試験② 模擬試験形式の答案作成と解答・解説
9	アルゴリズムとプログラミング	直前講座は8回で終了となります
10	マネジメント① (システム開発、テストと運用・保守)	
11	マネジメント② (プロジェクトマネジメントと工程管理)	
12	企業活動と法務① (企業会計)	
13	企業活動と法務② (知的財産権、関連法規)	
14	経営戦略とシステム戦略① (全社・事業・機能別戦略)	
15	経営戦略とシステム戦略② (情報システム戦略)	

基本情報技術者試験講座

ITスキルに磨きをかけて基本情報技術者を目指そう！！

講座の特長

- ・大学の授業で情報技術に関心を持った人！高校で情報技術を学んだ経験のある人！その関心を実力に変えて情報技術者試験の合格を目指す講座です。
- ・高校で情報の資格を取得した人または取得を目指していた人は、1年生からでも受講できます。（例：ITパスポート試験、日商PC検定、全商情報処理検定試験など）

【試験の概要・資格試験の全体像】

「基本情報技術者試験」は、経済産業省が認定する国家試験「情報処理技術者試験」（実施：独立行政法人情報処理推進機構）の一区分で、「高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能をもち、実践的な活用能力を身に付けた者」を認定する試験です。

国家試験ですので、合格レベルは情報産業界で広く認知され、情報技術者としての正に「基本」となる試験であり、更に上位の試験を目指す入口です。（下表を参照）

すべての社会人		情報処理技術者（ベンダ側/ユーザ側）									
情報処理技術者試験の試験区分	ITを活用する社会人に求められる基礎知識	高度な知識・技能	ITストラテジスト試験	システムアーキテクト試験	プロジェクトマネージャ試験	ネットワークスペシャリスト試験	データベーススペシャリスト試験	エンベデッドシステムスペシャリスト試験	情報セキュリティスペシャリスト試験	ITサービスマネージャ試験	システム監査技術者試験
		応用的知識・技能	応用情報技術者試験								
		基本的知識・技能	基本情報技術者試験								

(出典)「情報処理技術者試験 試験要綱」 情報処理推進機構

「基本情報技術者試験」は、春期（4月）、秋期（10月）の年2回実施され、「ITパスポート試験」は、CBT(Computer Based Testing)方式で随時各地の試験会場で実施されています。

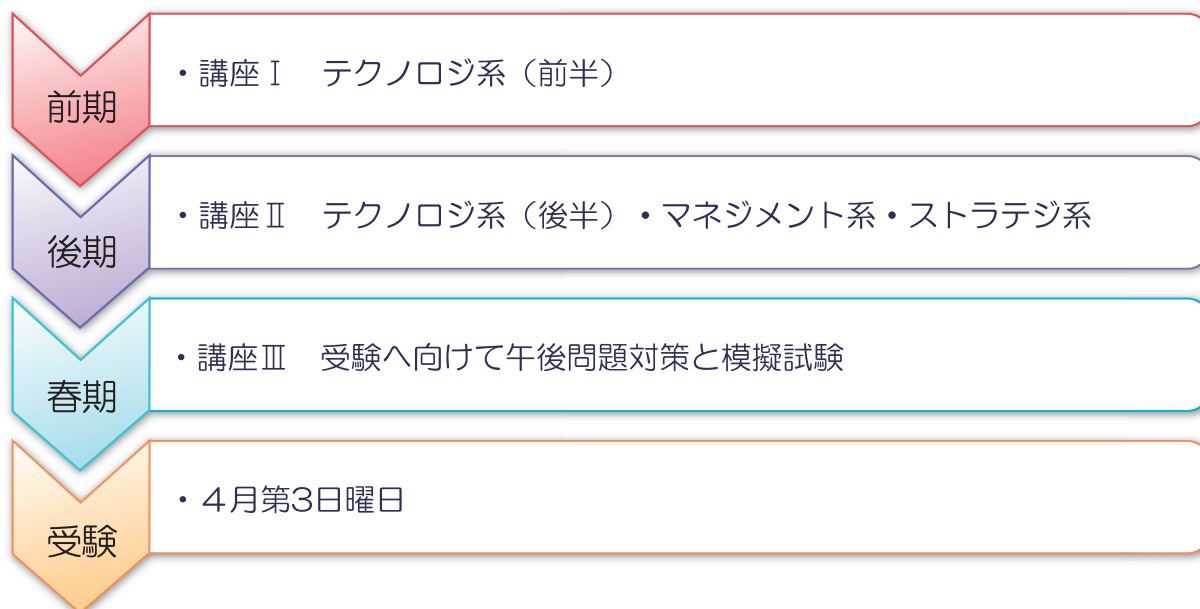
講師紹介・メッセージ



高橋 秀行（作新学院大学経営学部教授）

経営学部専門科目と共通教育科目にて、経営情報論、コンピュータシステム基礎、データベース概論、情報ネットワーク論など担当。「試験範囲は広いですが、決して難解な理数系試験ではありません。コンピュータの仕事のやり方を勉強しましょう！」

【講座のイメージ】 基本的には1年後の基本情報技術者試験を目標にします。
同時に、正課科目で開講する情報系科目も積極的に履修してください。



【講座内容】 基本情報技術者試験講座の各回授業での学習項目です。

講座名			
回数	基本情報技術者試験講座Ⅰ (前期)	基本情報技術者試験講座Ⅱ (後期)	基本情報技術者試験講座Ⅲ (春休み)
1	実力診断テスト	実力診断テスト	午後問題対策（テクノロジ）
2	基礎理論（1）	ネットワーク（1）	午後問題対策（テクノロジ）
3	基礎理論（2）	ネットワーク（2）	午後問題対策（テクノロジ）
4	アルゴリズムとプログラミング	セキュリティ	午後問題対策（マネジメント）
5	コンピュータ構成要素（1）	システム開発技術	午後問題対策（ストラテジ）
6	コンピュータ構成要素（2）	ソフトウェア開発管理技術	午後問題対策（開発言語）
7	システム構成要素	プロジェクトマネジメント	午後問題対策（開発言語）
8	ソフトウェア（1）	サービスマネジメント	午後問題対策（開発言語）
9	ソフトウェア（2）	システム戦略	基本情報技術者試験講座Ⅲは 8回で終了します
10	ハードウェア	経営戦略（1）	
11	ヒューマンインタフェース	経営戦略（2）	
12	マルチメディア	企業活動（1）	
13	データベース（1）	企業活動（2）	
14	データベース（2）	法務	
15	模擬試験&解説	模擬試験&解説	

資格取得支援講座 FAQ

Q 資格取得支援講座の受講料はかかりますか？

A 資格取得支援講座の受講料は無料です。ただし、講座運営諸経費が発生するとともに、各講座で使用するテキストや問題集、模擬試験等については自己負担となります。

Q 講座運営諸経費とは何ですか

A 講座運営諸経費とは、配布資料のコピー代、各種事務手続きに要する経費などが該当します。講座運営諸経費の金額は講座の実施回数に応じて決まり、税理士講座（会計）が10,000円、公務員講座が8,000円、日商簿記2級講座が7,000円、税理士講座（税法）が6,000円、基本情報技術者試験講座が4,000円、ITパスポート試験講座が2,000円となります。

Q 資格取得支援講座を受講すると卒業要件単位に加算されますか？

A 資格取得支援講座が合格目標としている資格試験に合格した場合には、所定の手続きを行うことで取得した資格の種類に応じた単位数が卒業要件単位として加算されます。（ただし加算される単位数には上限があります）

Q 資格取得支援講座はいつ開講されるのですか？

A 資格取得支援講座は、通常の授業期間中は、原則として月曜日の3～5時限（13:00～17:50）と水曜日の3・4時限（13:00～16:10）のいずれかの時間帯に開講します。また、通常の授業期間外には、夏休みと春休みの昼間に開講します。月曜日と水曜日の資格取得支援講座を開講する時間帯は一部を除いて必修科目が開講されていないため、大学の正課科目の履修を妨げることなく、資格取得に向けた勉強を行うことができます。

Q 複数の資格取得を目指すことは可能ですか？

A 1年生でITパスポート、2年生で基本情報技術者、3年生で公務員というように各学年で段階的に一つずつ講座を受講することで、複数の資格取得を目指すことが可能となります。

Q 資格取得支援講座は何年生から受講できますか？

A 1年生から4年生まで自由に履修することができます。ただし、講座によっては受講開始学年が決まっている講座もあります。

Q 資格取得支援講座の担当講師はどのような先生ですか？

A 資格取得支援講座は、資格取得に向けた最短ルートを提供するために、各資格試験の受験対策に精通していて、受験指導経験や合格実績が豊富な講師が担当します。詳細は各資格紹介ページの担当講師欄をご覧ください。

Q 資格取得は就職活動において役に立ちますか？

A 大学在学中に資格を取得することは就職試験において必ずプラスに働きます。例えば、公務員試験に合格することは、そのまま就職に直結しますし、税理士試験の科目合格を果たすことは、税理事務所をはじめとした会計を専門とする職種への就職において有利になります。

Q 合格実績はどうなっていますか？

A 資格取得支援講座の合格実績については作新学院大学ホームページ (<http://www.sakushin-u.ac.jp>) にて順次公開していきますので、ホームページを参照してください。

Q 講座受講後の帰りの足はどうなりますか？

A JR宇都宮駅と大学を結ぶスクールバス（無料）を運行しています。通常の授業実施日は、授業の時間帯に合わせてバスを運行し、夏休みや春休みに実施する講座についても、朝と夕方にJR宇都宮駅と大学を往復するスクールバスを運行しています。



津布久彩乃 経営学部卒業生・小山市消防本部勤務

大学では4年間陸上競技部に所属し、体力には自信があったことに加えて、陸上競技部の先輩が消防士となり活躍する姿を目にする機会があり、私も消防士を志望するようになりました。公務員試験講座では3年生の6月から筆記試験対策だけでなく、面接試験の対策講座もあり、十分な試験対策を行うことができ念願通り最終合格を果たすことができました。地域の方々や職場の同僚に信頼される消防士として活躍できるように頑張りたいと思っています。

作新学院大学資格取得支援講座についてさらに知りたい方、ご質問のある方は下記までお問い合わせください。

・キャリア・就職支援課

電話：028-670-3645

E-mail: syuusyok@sakushin-u.ac.jp

・大学教育センター資格取得支援講座担当

前橋 明朗（経営学部教授）

E-mail: akira007@sakushin-u.ac.jp



